

有明工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	卒業研究 I	
科目基礎情報							
科目番号	4M009			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	創造工学科(メカニクスコース)			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	後期:3		
教科書/教材							
担当教員	南 明宏,篠崎 烈,明石 剛二,柳原 聖,坪根 弘明,原慎 真也,岩本 達也,坂本 武司,伊野 拓一郎,塚本 公秀						
到達目標							
1. 課題に対し主体的に取り組み、学習成果をレポートとしてまとめることができる。 2. 研究分野に関連する文献（英語文献を含む）を読み、研究分野の内容や課題、問題を理解できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		課題に対し主体的に取り組み、学習成果をレポートとして分かりやすく、正しくまとめることができる。		課題に取り組み、学習成果をレポートとしてまとめることができる。		課題に取り組み、学習成果をレポートとしてまとめることができない。	
評価項目2		研究分野に関連する文献を読んで、内容・課題・問題を明確に理解できる。		研究分野に関連する文献を読んで、内容・課題・問題を理解できる。		研究分野に関連する文献を読んで、内容・課題・問題を理解できない。	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 B-2							
教育方法等							
概要	卒業研究は他の教科科目と異なり、単に専門分野に関する知識を修得するためのものではなく、自ら課題を見出し、知識を深め、解決への道程を切り開くものである。研究テーマは様々であるため課題やその解決方法は異なる。4年次で行う卒業研究は5年次で行う卒業研究の準備期間として位置づけ、研究遂行に必要な基礎事項について学ぶ。						
授業の進め方・方法	担当教員の指導のもと、自ら計画を立て、研究分野の内容や、問題・課題などを解決するために研究を遂行する。						
注意点	本科目を5年次の卒業研究の準備期間と位置づけている。学習成果となるレポートの作成には、国語、英語、数学のほか、コンピュータに関する知識が要求される。学習成果のレポート作成やその学習の一環としての調査、5年生・専攻科生との共同作業を時間外に行うこともある。また、到達目標の1)に挙げているように「課題に対し主体的に取り組む姿勢を養う」という観点から自ら計画を立てて学習等を行うことが重要である。 評価は学習成果のレポートで行い、60%以上を合格とする。 本科目を5年次の卒業研究の準備期間と位置づけている。学習成果となるレポートの作成には、国語、英語、数学のほか、コンピュータに関する知識が要求される。学習成果のレポート作成やその学習の一環としての調査、5年生・専攻科生との共同作業を時間外に行うこともある。また、到達目標の1)に挙げているように「課題に対し主体的に取り組む姿勢を養う」という観点から自ら計画を立てて学習等を行うことが重要である。 評価は学習成果のレポートで行い、60%以上を合格とする。 後期						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		卒業研究の概要および各研究室の卒業研究の内容を理解できる。		
		2週	研究の計画		担当教員が与える具体的課題を理解できる。		
		3週	研究の計画		担当教員が与える具体的課題を理解できる。		
		4週	研究の実施		5年生の卒業研究の中間発表を聴講して様々な研究の概要を理解できる。		
		5週	研究の実施		担当教員が与える具体的課題の検討および考察ができる。		
		6週	研究の実施		担当教員が与える具体的課題の検討および考察ができる。		
		7週	研究の実施		担当教員が与える具体的課題の検討および考察ができる。		
		8週	研究の実施		担当教員が与える具体的課題の検討および考察ができる。		
	4thQ	9週	研究の実施		担当教員が与える具体的課題の検討および考察ができる。		
		10週	研究の実施		担当教員が与える具体的課題の検討および考察ができる。		
		11週	研究の実施		担当教員が与える具体的課題の検討および考察ができる。		
		12週	研究の実施		担当教員が与える具体的課題の検討および考察ができる。		
		13週	研究の実施		担当教員が与える具体的課題の検討および考察ができる。		
		14週	研究の実施		担当教員が与える具体的課題の検討および考察ができる。		
		15週	研究の実施		担当教員が与える具体的課題の検討および考察ができる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	後15
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	後15
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	後15
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	目標の実現に向けて計画ができる。	3	後15
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	後15
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	後15

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	100	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0